

○ 単収の考え方

- 1 設定草種は良質粗飼料として、混播牧草、チモシー、イタリアンライグラス、トウモロコシ、スーダングラスの5草種とした。
- 2 良質粗飼料に係る望ましい経営体の単収水準は、基本計画の27年目標と過去5年間（平成11～15年）の平均値との比を、道、都府県別に算出し、酪肉近の地域イメージを考慮の上、各草種に乗じて示した。

○経営指標における単収について

気候帯分類	地域分類	草種	平成11～15 年産平均値①	係数 ②	設定単収 ③=①×②	指標 表示	(参考) 前回設定値
寒地	北海道	混播牧草	3,530	1.15	4,050	4,100	3,930
		チモシー主体	4,021	1.15	4,620	4,600	—
		トウモロコシ	5,196	1.15	5,970	6,000	5,810
寒冷地	東日本(東北など)	混播牧草	3,920	1.10	4,320	4,300	4,420
		トウモロコシ	4,925	1.10	5,430	5,400	5,530
温暖地	西日本(九州を除く)	トウモロコシ	5,186	1.10	5,710	5,700	5,730
		イタリアンライグラス	5,678	1.10	6,250	6,300	6,100
暖地	九州	トウモロコシ	5,408	1.10	5,960	6,000	6,100
		スーダングラス	6,778	1.10	7,470	7,500	7,650
		イタリアンライグラス	6,576	1.10	7,240	7,200	8,130

資料:「作物統計」

注:係数は道、都府県の27年基本計画の単収目標を各々の11年から15年の平均単収で除して算出。
チモシーの単収は「畜産振興課」調べ。